



するーDXの実現を目指してー」と題した講演を聴き、今後の社会に向けた教育について考えさせられました。今年の11年生からBYOD事業が始まり、一人一台端末を持つことになりました。この活用については、現在も試行錯誤が続いており、現場での対応は各学校で異なっ

ている実情があります。また、「総合的な学習の時間」から「総合的な探究の時間」に代わったことで、「探究活動」を教科横断的に行うことが求められるようになり、教育現場は日々その変化に伴う対応に追われるといった実情があります。本校でも探究活動に当たっては、地域(加東市)との関わりや地元企業、大きな企業からミッションをもらっての創造的な学習を進めているのですが、定着するにはもう少し時間がかかりそうです。そういった日々の課題を感じながら話を聞いていると、今後の若者に求められるのは「ゼロからイチを生み出す能力」「一つのことを掘り下げていく姿勢」「グローバルな社会課題を解決する意欲」「多様性を受容し他者と協働する能力」だそうです。また現在は「注意深さ・ミスがないこと」「責任感、真面目さ」が重視されるが、将来は「問題発見力」「的確な予測」「革新性」が一層求められるそうです。これは写真にあるように経済産業省が「人材未来ビジョン」の中で説明しているのですが、まさしくこのことが探究活動の必要な理由だともいわれており、そういった人材育成をしていかねばならないということでした。2050年の高成長シナリオ(高成長を遂げる戦略)では「事務従事者42%減少、販売従事者26%減少、卸売・小売業27%減少など職種や産業にも労働需要の変化が訪れる」という試算もあるくらいにデジタル化が進むそうです。数年前から将来なくなる職業などをいわれてきたことが現実味を帯びてきました。そういった時代を生き抜くために、今の高校生がどのような力を身につけておくべきかを考えるに当たり、私たち自身の意識改革の必要性を嫌というほど感じさせられた講演でした。変わりゆく世の中の変化に対応するのはICT活用の得手不得手もあり、難しいかもしれませんが、舵は切っていかなければなりません。「まず使う」「とにかく使う」「いつでも使う」「どこでも使う」「自由に使う」ことを目指してやってみなければなりません。職員同士でしっかり協力し、外部からのご助言もいただきながら進めていきたいと思えます。よろしくお祈りします。

9月10日は豊岡市総合体育館で行われたバドミントン県新人大会個人の部に行きました。写真は上段左から近畿大会出場を決めた男子ダブルスベスト8岡田・吉田ペア(1年)



3位に入った永田・吉田ペア(2年)、女子ダブルスベスト8川村・高橋ペアです。下段は女子シングルスベスト8川村選手、男子シングルス吉田選手です。近畿大会出場決定戦で惜しくも敗れた選手もありましたし、男子は村野工業、女子は園田といった強豪校と対戦し、惜しいところで負けた試合もありました。試合全般を見ていて感じたことは、本校生に限らず丁寧な試合、考えた試合をするものが勝ち上がるということです。これは夏の野球の試合や、陸上の試合を見ていても感じたことですが、丁寧さに欠けると準備が疎かになることがあり、勢いで行けることはあっても長続きはしないし、強豪校相手には通用しない部分も出てくるということです。場合によってはスランプも長引きます。日頃の物事に対する丁寧さ、考えて行動することなど当たり前のことを大事にする大切さを改めて感じさせられました。近畿大会やこの後の団体戦では修正をして、持てる力を発揮してください。健闘を祈ります。



2学期が始まって10日が過ぎ、疲れも出てくる頃です。体調管理に気をつけ充実した秋を送りましょう。